

令和4年度 厚生労働省委託事業
在宅医療関連講師人材養成事業 研修会

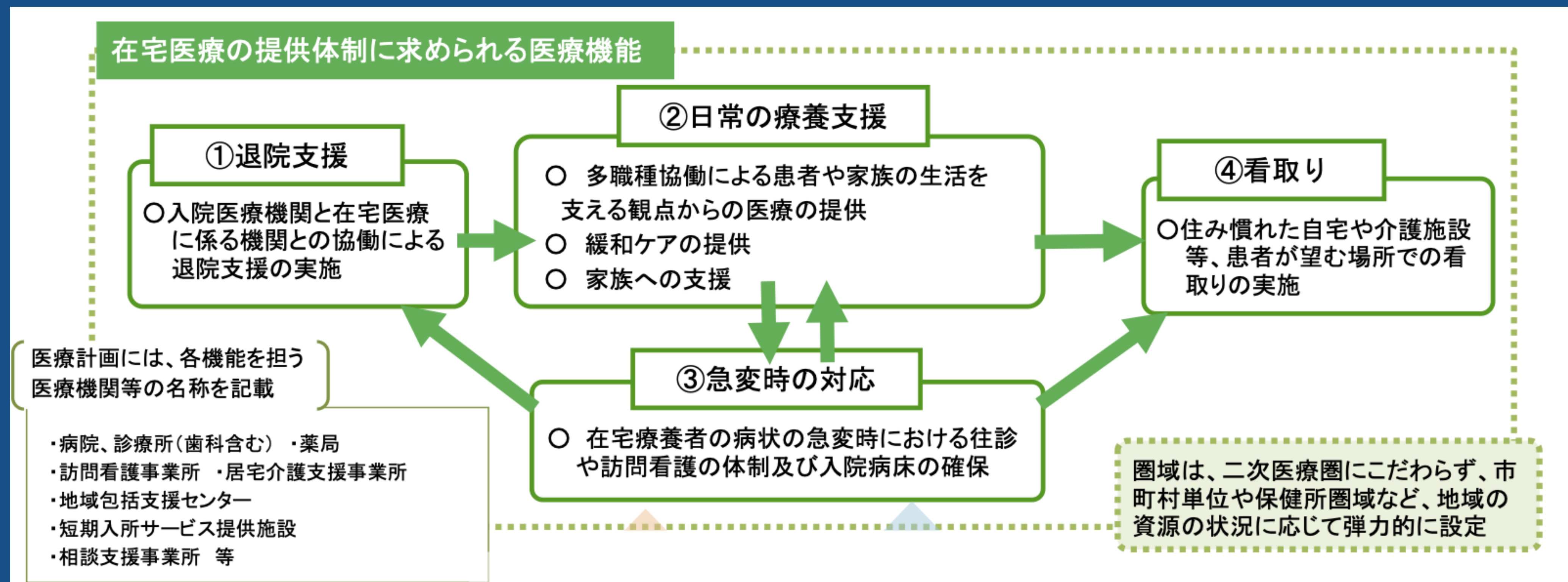
各論⑤

在宅歯科医療 現状とその問題点

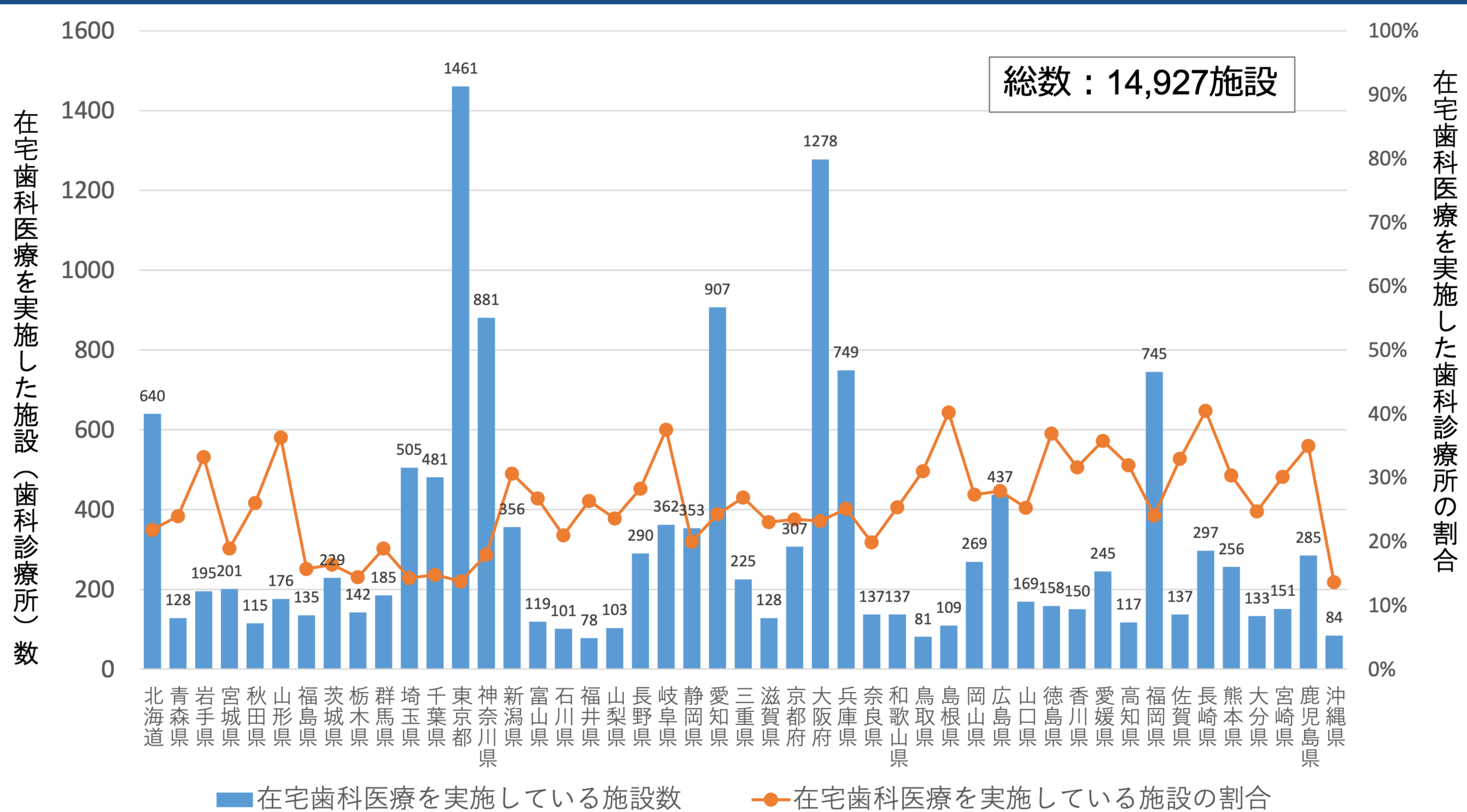
全国在宅療養支援歯科診療所連絡会 会長

三木 次郎

在宅医療の供給体制に求められる医療機能



在宅歯科医療の実施状況



出典：平成29年医療施設調査（平成29年9月の実施状況）

在宅歯科医療における日常療養支援

多職種協働による患者や家族の生活を支える歯科医療

口腔の一般的な歯科治療

口腔衛生管理

誤嚥性肺炎予防

安心安全な経口摂取のために

摂食嚥下機能管理

(小児在宅)

終末期の口腔管理や緩和ケア

家族への支援

在宅における歯科治療

虫歯、歯周病の治療や予防

抜歯

入れ歯

在宅歯科医療において、一般的な治療は診療室における治療と同様な治療が可能であるが、全身状態や精神の状態また処置の難易度等により処置が困難になる場合もある。
治療を円滑に進めるためには医師や多職種との情報共有が重要です。

CASE1

口腔環境改善→義歯装着



写真1 初診時の口腔内の状態

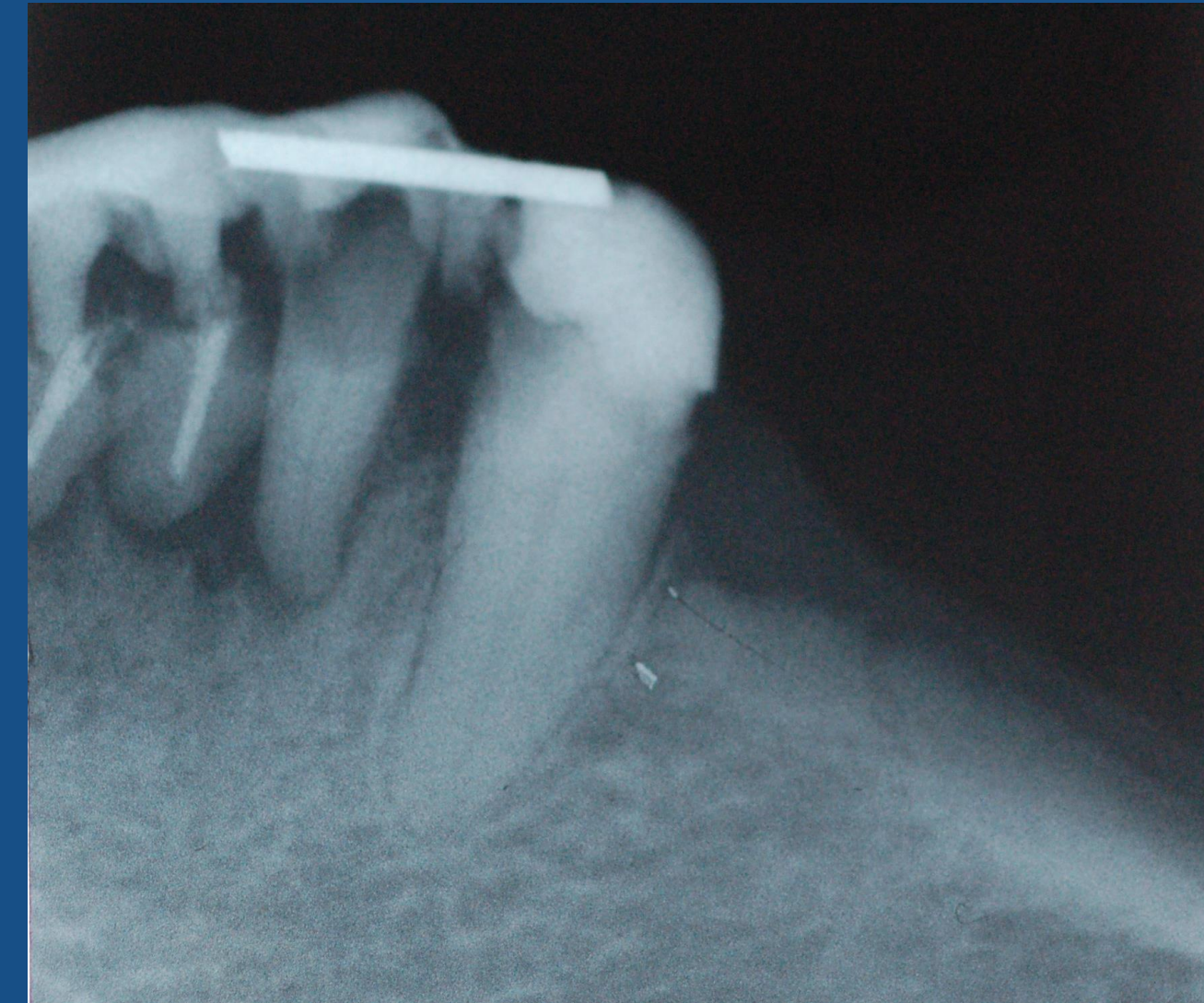


写真2 初診時のレントゲン



写真3 抜歯、歯冠補綴後



写真4 最終処置、義歯装着

口腔衛生管理

口腔の衛生は誤嚥性肺炎の予防や経口摂取の継続のために重要で生命のベースになるといっても過言ではありません。

CASE2

口腔衛生管理の長期中断による高度歯周炎



写真1 初診時 歯石で歯が見えない



写真2 歯肉の強い発赤腫脹

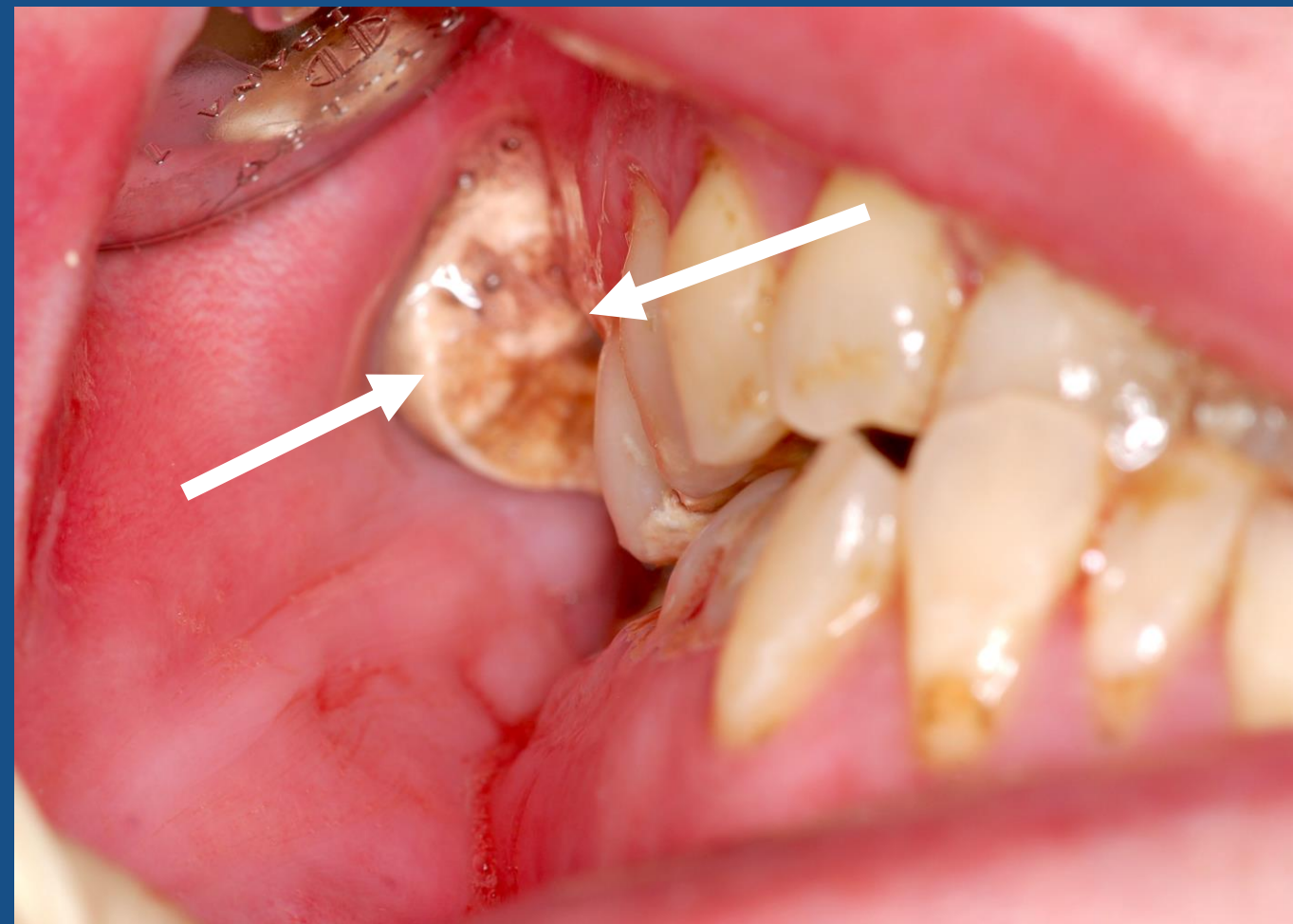


写真3 歯を覆っていた歯石の厚み



写真4 きれいになった歯肉

CASE3 重度歯周炎と薬剤の関与

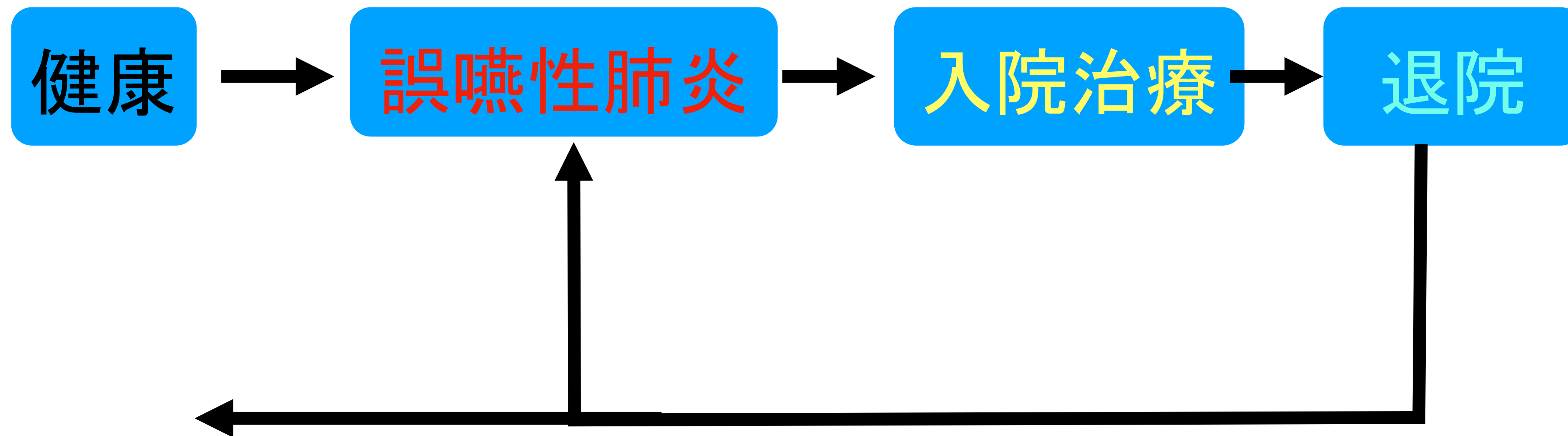


CASE4

胃瘻患者の口腔内の汚れ

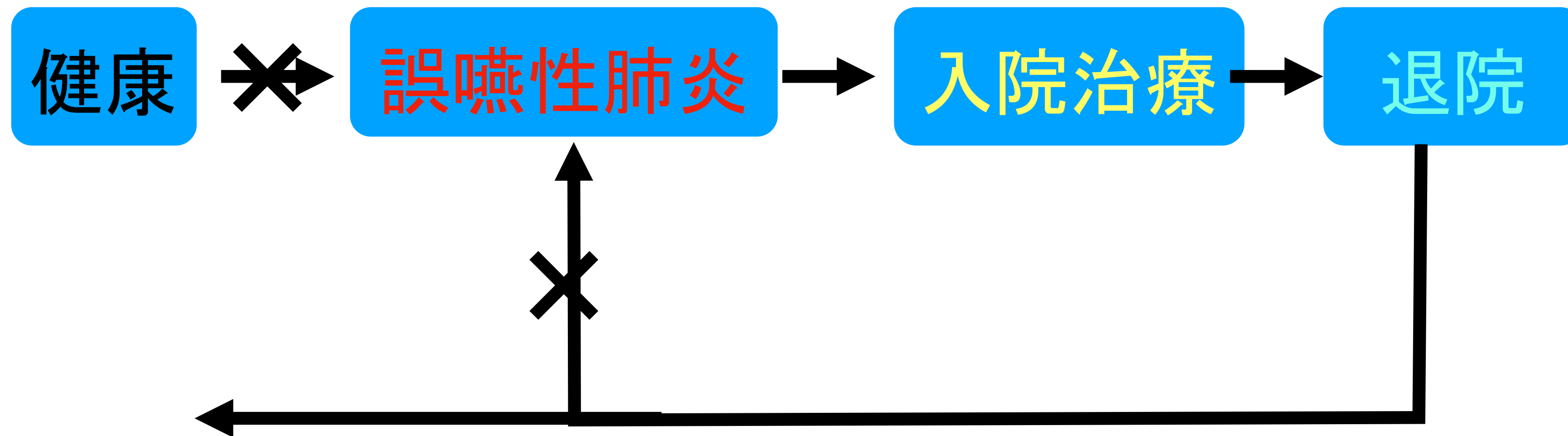


誤嚥性肺炎のスパイラル



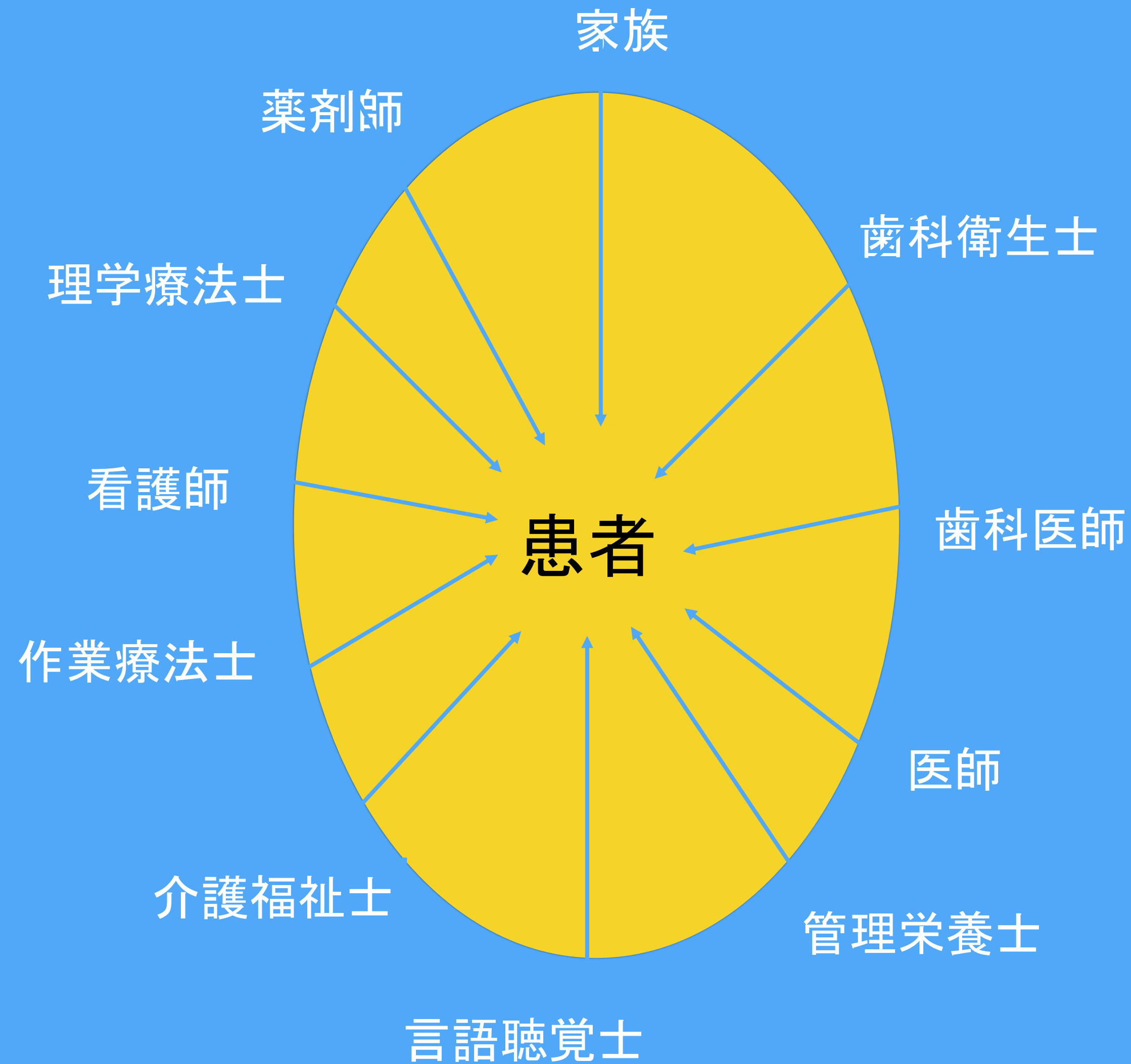
口腔衛生管理(口腔ケア)の重要性

誤嚥性肺炎のスパイラル

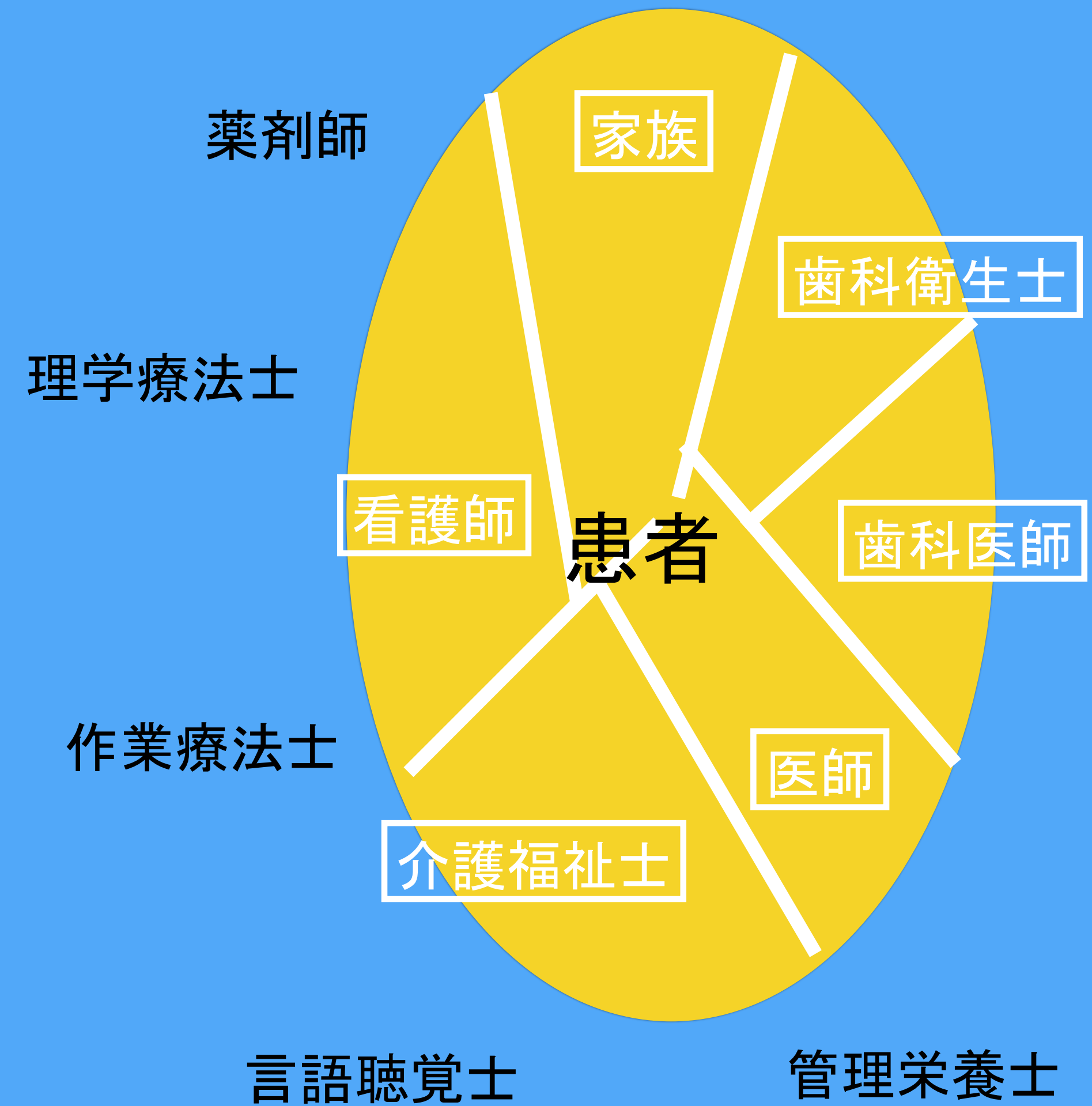


口腔衛生管理（口腔ケア）の重要性

Multi-or Inter-disciplinary team



Trans-disciplinary team



口腔ケア多職種研修



摂食嚥下機能管理

嚥下リハ用口腔内装置



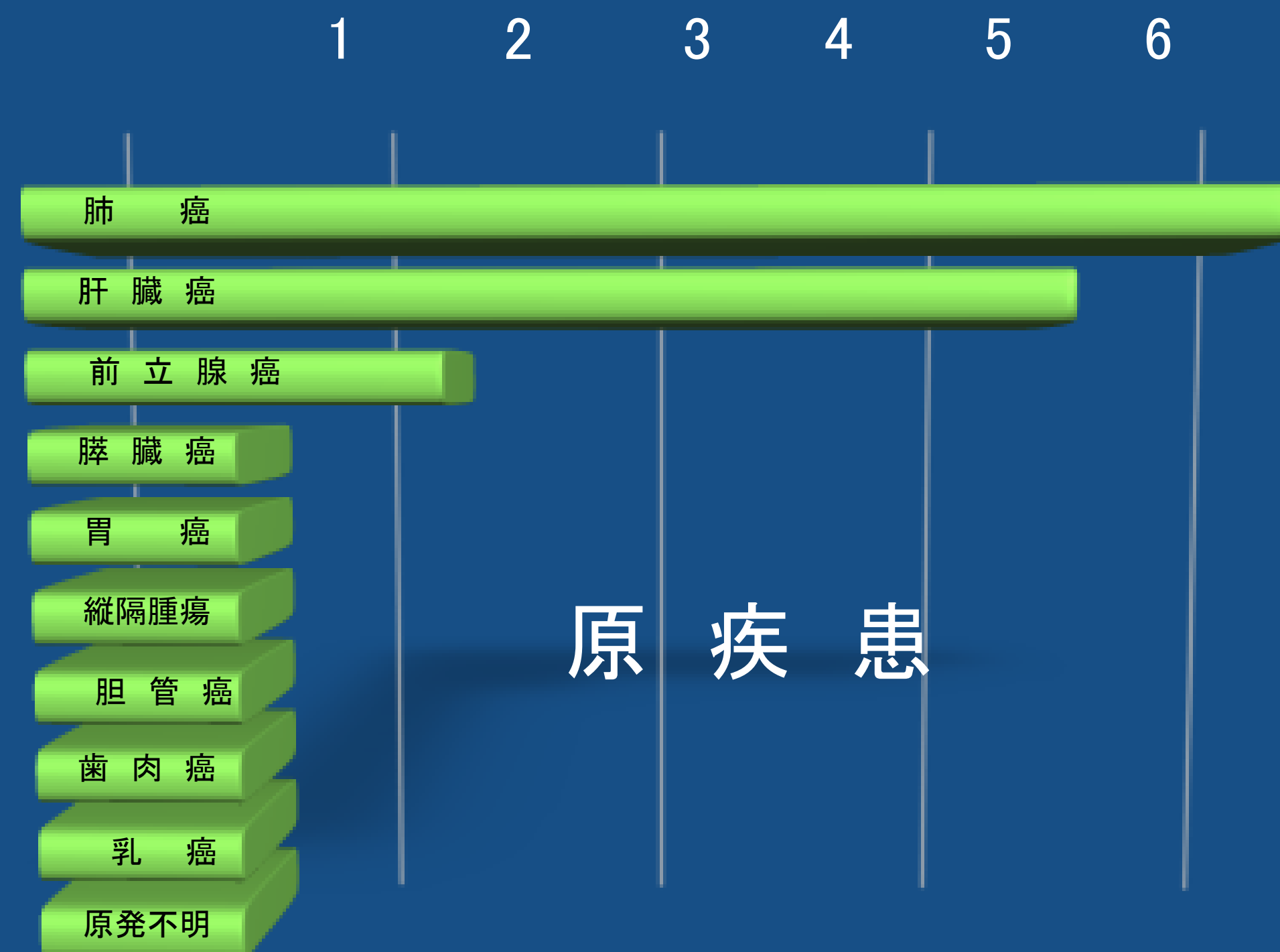
口唇閉鎖訓練



訪問栄養ステーションから管理栄養士による食事調整



終末期の口腔管理と緩和ケア



平成21年～令和元年。ほとんど全ての方が治療が終了して在宅で療養されていた方ですがそのうち、2例は病院への訪問です。処置は口腔衛生管理は必須で全ての症例で行われた

その他、抜歯、義歯の装着、口腔カンジダ症の処置、口腔乾燥に対す処置等が行われた

抜歯5例、抜歯して新義歯を装着したもの2例、抜歯して義歯を修理(増資)したもの1例、新義歯の装着のみを行ったもの2例、義歯の調整(床裏装、修理を含む)だけを行ったもの5例、歯冠補綴を行ったものは3例であった。

ほとんどの症例は、医師との情報の共有がなされ、抜歯については医師立会いのもとに行ったものも、2例ある。

CASE5 肝臓がん末期



上下動揺歯 ↑ ↓



抜歯縫合 ↑ 義歯装着 ↓



義歯の調整管理とその他の支援



⇧ 義 歯 の 管 理 ⇧



笑 顔

緊急時の対応

外傷

CASE6

上顎中切歯歯牙脱臼、歯根破折



同部レントゲン像





レントゲン像
4年後



治療直後
ワイヤーとレジンで固定



約1ヶ月後
固定除去時



まとめ

在宅医療において多職種協働が重要視されてから長い年月が立ちます。そしてその間、専門職における盾の関係での在宅医療や介護の理論や方法は、かなり向上したように感じます。しかし、専門職同士が横の関係で情報を共有し、協働するという形態ははまだ発展途上であると思われます。多職種が協働するということは、1たす1が2になるばかりではなく3にでも4にでもなります。そして、それは患者、利用者に非常に有用です。さらに全身的にも生物学的な生命の質ばかりでなく、生活の質・人生の質の向上が期待でき、精神的にもより良い影響を与える事ができると考えられます。

今後も継続して、地域、特に市町村レベルでの顔の見える関係の構築、多職種共同に向けた働きかけを続けていくことが課題ではないかと思います。

そして多職種のことを理解し、補っていく、ことが必要です

私の診療所は人口5万人の中小都市のミニマムな診療所です。本日の症例は全て自分の、担当症例です。そう考えると日本中にはもっともっとたくさんの口腔弱者がいます。本日の講習によって、みなさまが、少しでも在宅歯科医療に対する理解が深まってくれることを願って、終わりたいと思います。